

令和7年度 2学年プレゼンテーションコンテストの概要

1 目的

論理的思考力と英語によるコミュニケーション能力を高めることを目的とし、1・2年生でプレゼンテーションコンテストを実施している。プレゼンテーションの準備の過程を通して、国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力を身に付ける。

2 プレゼンテーションコンテストのスケジュール

11月の本選に向けて、発表そのものは3分間だが、4月から半年以上かけて準備をしていく。準備の内容は大きく分けて、話す内容を考えるアウトラインやドラフトの作成とブラッシュアップ、スライドの作成、発表練習、リハーサルがある。これらの準備を通して、アイコンタクト、ジェスチャー、説得力あるプレゼンテーションスライドの作成など、生徒は様々なプレゼンテーションスキルを学ぶ。テーマもグローバルなテーマとしてSDGsに関連するテーマから生徒自身が選んでいく。

4月	プレゼンテーションコンテストについてのイントロダクション
5月	アウトライン提出締切
6月	ドラフト提出締切&フィードバック
7、8月	発表用スライド作成と発表練習
9月	プレゼンテーションのリハーサル
10月	1次予選（「論理表現II」のクラス内で20名中2名を選出。） 2次予選（「英語コミュニケーションII」のクラス内で4名中1名を選出。）
11月12日	本選（体育館にて実施。）

3 生徒が選んだテーマ例（SDGsに関連するテーマ）

- Affordable and Clean Energy
- Responsible Consumption and Production
- Good Health and Well-Being
- No Poverty
- Gender Equality
- Quality Education
- Climate Action
- Water Shortage
- Peace
- Pollution
- Zero Hunger

4 ファイナリストの発表題

- A Little Power A Little Help (No Poverty, Responsible Consumption and Production)
- From Fast Fashion to Sustainable Fashion (Responsible Consumption and Production)
- Education for All and No One Left Behind (Equal Education)

- Importance of Challenges
- Fast Fashion (Responsible Consumption and Production)
- Rethinking Beauty Standards: Creating a More Equal World (Reduced Inequalities)
- Small Steps, Big Impacts (Good Health and Well-Being)
- War is Not a Story of a Distant Country (Reduced Inequalities)
- Solving Marine Pollution (Life Below Water)

5 7期生プレゼンテーションの特徴について

7期生は1年生の時にレシテーションに取り組んだ。有名なスピーチの暗唱を行い、今回のコンテストと同様にクラスでの選考を経て、学年発表会があった。その際、1年先輩である2年生のプレゼンテーションコンテスト優勝者のプレゼンテーションを聞き、来年度には自分たちが今度はプレゼンテーションに取り組むのだ、ということ意識させた。

1年生でのレシテーション、英語の授業での数々のミニプレゼンテーションを経て、2年生では年度初めからプレゼンテーションの準備を始め、SDGsのテーマの選択、プレゼンテーションの組み立て、アウトラインを作りあげていった。それぞれの段階で、少人数クラスでの日本人教師によるフィードバックを行い、ALTによる英文添削を経て、生徒たちはプレゼンテーション原稿を作り上げた。夏休みに各自練習を行い、夏休み明けから相互のフィードバックを含めた生徒同士での練習、1分間リハーサルと教師によるフィードバックを経て、プレゼンテーションを仕上げた。多くの生徒たちにとって本番は少人数クラスでの発表となったが、約20名のクラスメイトの前で自分が作ったプレゼンテーションを英語で発表する機会は、貴重なものであった。

発表者としての学びに加え、「聞き手」としての姿勢を養った。生徒には仲間のプレゼンテーションを聞いて気付いたことを記入していくワークシートに取り組ませた。多くのプレゼンテーションを聞くことを通して、SDGsテーマについての学び、英語を聞く力も養われた。

6 コンテスト実施後の生徒アンケート、一部抜粋（生徒198名のアンケート結果より）

①SDGsについて国際的な視野を持つことができた。

そう思う 55% ややそう思う 41% あまりそう思わない 3% そう思わない 1%

②SDGsについて主体的に考える力が身に付いた。

そう思う 51% ややそう思う 41% あまりそう思わない 7% そう思わない 1%

③SDGsについて探究する力が身に付いた。

そう思う 47% ややそう思う 45% あまりそう思わない 7% そう思わない 1%

④プレゼンテーションをするにあたり、論理的思考力が身に付いた。

そう思う 51% ややそう思う 3% あまりそう思わない 5% そう思わない 1%

⑤聞き手として、プレゼンテーションを聞く態度が身に付いた。

そう思う 66% ややそう思う 31% あまりそう思わない 2% そう思わない 1%

⑥他の生徒のプレゼンテーションを聞いて、SDGs に関する問題への理解が深まった。

そう思う 58% ややそう思う 38% あまりそう思わない 2% そう思わない 2%

⑦夏休み前から準備が始まった「プレゼンテーションコンテスト」への取り組みが、「スキルや能力の向上につながった」

そう思う 41% ややそう思う 48% あまりそう思わない 9% そう思わない 2%

⑧上のように思う理由

- ・英語を自ら覚えようとして英語に対する意欲が上がったから。
- ・わからない単語を調べて発音も同時に覚えることで知識もつき、会話力も向上することができたと感じたから。
- ・論理的に考え頭で理解した情報を整理して説明する必要があったから。
- ・他の人の発表を聞くことで自分にはなかった視点をもて、暗記することや自分で考える力がついた。
- ・環境や国際的な問題について考えて、自分の言葉で聞き手に説明することができたから。
- ・発音やイントネーションなどの細かい部分まで意識することができたから。
- ・難しい言葉やより専門的な言葉を使うので、語彙力の向上に繋がったと思う。
- ・文を考える力とアドリブの力がついた。
- ・自分が伝えたいことをどれだけ自分の知っている単語で言えるかができたから。
- ・英語を聞く能力が上がった。
- ・自分が発表する文の単語やイントネーションがわかるようになり、文法をもっと理解することができるようになった。
- ・簡単な英語でも身振り手振りで色々な表現の仕方をすることができたから。
- ・ただ事実を並べて説明するのではなく繋ぎの言葉を入れ、英文を流暢に話せるように練習したから。
- ・大事な情報を短くまとめる力や多様な目線から考える能力がついたように感じたから。

⑨「プレゼンテーションコンテスト」によって向上したと思う能力・スキルとしてあてはめるもの。(複数回答)

- ・課題について自分事として解決策や、よりよくする方法について考える力 53%
- ・英文を暗唱する力 53%
- ・多くの人の前で話す度胸・勇気 46%
- ・1つ1つの英単語を正しく発音する力 41%
- ・英文をリズムよく流暢に読む力 39%
- ・課題について分かりやすく、丁寧に聴衆に伝える力 32%
- ・伝えたい内容を論理的に構成する力 28%
- ・他人の発表を参考にして自分の学びにつなげる力 20%
- ・ジェスチャー・身振り手振りを効果的に使う力 19%

⑪自分の考えを組み立て、英語で発表することにどの程度達成感を感じたか。

大いに感じた。23% やや感じた。53%
あまり感じなかった。19% ほとんど感じなかった。5%

⑫「プレゼンテーションコンテスト」への自身の取り組みを振り返り、最も近いもの。

非常に頑張った。25% まあ頑張った。65%
あまり頑張らなかった。9% 頑張らなかった。2%

⑬プレゼンテーションコンテストを終えて、今後伸ばしたいと思う英語の力。(複数回答)

- ・スピーキング力(会話力) 58%
- ・リスニング力(聞く力) 57%
- ・スピーキング力(発表力) 53%
- ・文法力 49%
- ・語彙力 48%
- ・リーディング力(読む力) 41%
- ・ライティング力(書く力) 36%

⑭プレゼンテーションなどの発表活動は、今後の自分の進路において(大学入試や就職など)、どの程度役立つと思うか。

役立つ 48% やや役立つ 44% あまり役立たない 8%

⑮説得力のあるプレゼンテーションをするために必要な要素は何だと思うか。『話す力』についての記述。

- ・イントネーションを意識することや、声のトーンを話す言葉や雰囲気を変えること。
- ・聞き手に質問を投げかけたり論理的な根拠を加えたりして、聞き手に分かりやすく説明す

る。

- ・重要な部分を強調して話す。
- ・ただ情報を伝えるだけでなく、相手にどう感じさせ、相手をどう動かすのかを意識して話すこと。
- ・声の大きさ、速さ、間のとり方を工夫することで、聞く人が内容を理解しやすくなるし、表情なども意識して話すことで説得力が増すと思う。

7 ファイナリストの声

<コンテスト終了後の感想>

- ・初めてこんなにも長い期間英語に向き合ったので、文法や単語も覚えられた。授業の内容などがスムーズに理解できて、やってきたことが他でも発揮できたのが良かった。
- ・本番は程よい緊張と少しの高揚感があって、思ったよりも落ち着いて舞台を楽しめた。いざステージに上がった瞬間、不思議と「ここまでやってきた練習の成果を全部出そう、今の自分ならうまくできる」と気持ちが決まって、うまくできないかもしれないという不安がずっと消えていったことには自分でも驚いた。

<プレゼンで大切にしたこと、苦労したこと>

- ・「何を伝えたいか」ということに重点を置いた。それは海洋汚染のことを知ってもらうこと、危機を覚えてもらうこと。知ってもらう＝プレゼンが印象に残るのが良いと考えたので、聴衆に呼びかけたり、自分の使っているものを紹介したり、最後には語りかけたり、他の人とは異なるスタイルで臨んだ。
- ・練習で特に意識したのは、近くの人だけでなく、体育館の一番遠くの人にも自分の思いが届くように伝えること。声の出し方やボリューム、スライドの構成、ジェスチャー、間の取り方、ステージ上での動き方まで、一つ一つ丁寧に考えた。言葉と一緒に感情を伝えるように、行動を呼びかけるように意識して練習を重ねた。

8 アンケート結果の考察

生徒たちの振り返りに、彼らの学習に対するメタ認知能力を見ることができた。「プレゼンテーションコンテスト」への取り組みが、「スキルや能力の向上につながった」に対する理由の自由記述で、多くの生徒達が学習過程や学習を通して得た力を自身の言葉でひも解くことをしている。「プレゼンテーションコンテスト」という一つの大きなイベントを通し、生徒たちは英語力のみならず多くの力を伸ばすことができることが分かった。(参照：質問⑨の「身に付いた力」に対する回答) 生徒自身の挑戦する気持ちや姿勢に加え、各教科科目で普段から学んでいることや振り返る力の積み重ねが、この成果につながっている。

本校7期生として取り組んだ、1年次「レシテーションコンテスト」、2年次「プレゼンテーションコンテスト」での経験や学びを、次年度の学習や今後の人生に活かしてほしい。